



幼児の性格に及ぼす諸條件に關する一調査

和田典子

一

幼児期の性格は將來の方向を決定すべき原型として教育上重視されているが、性格形成の最初の時期である幼児期の生活の場としての家庭環境の在り方は、直接間接に性格形成要因としてこどもに働きかけその方向に深い影響を與えるものと思われる。環境の中で自由に経験せしめ、環境を介して幼児の教育が行わるべき事は改めて述べるまでもない、そのためには環境、即ち家庭生活の教育的形成が先づ考えられねばならない。この問題について考察するためにこどもの性格と其に及ぼす諸條件についてさうやかな調査を行つてみたのでその結果を御報告したいと思ふ。

(一) 調査の方法

- a、調査對象は附屬幼稚園児一九六名とその家庭である。
- b、實施期日は昭和二十三年十一月—十二月。
- c、先づ園児の性格評定を行つたが、これには淡路氏の幼

児性行評定尺度を用いた。

d、尺度に現れた園児の性格をA、B、C、D、Eの五つの類型に分類した。

e、次に園児の家庭環境を質問紙によつて調査したが之は家庭状況、身體状況、教養状況等合計二十八項目について行つたものである。

f、環境調査の回答結果を性格類型別に集計し之等の比較検討によつて問題を考察、結論を得ることに努めた。

(二) 調査の概要

當幼稚園児の性行傾向には次の如き特徴がみられた。即ち

- 一、元氣である。
 - 一、自分の考で行動する。
 - 一、自分の事は自分でする。
 - 一、それまなす。
- 等の諸項目にあつては比較的高い評定點を示したが、一、よく注意する。

一、根氣がよす。

一、工夫をこらす。

等の項目の評點は高くなかつた。

又男兒と女兒の性行傾向を比較すると、

一、元氣である。

一、そねまない。

の二項目では男兒の方が著しく高く、

一、氣輕である。

一、物事を知りたがる。

一、工夫をこらす。

一、素直である。

一、協力する。

等もやゝすぐれている。しかし

一、よく注意する。

一、根氣がよす。

一、落着きがある。

一、自分の考で行動する。

一、秩序を守る。

一、睦み合う。

一、人の面倒をみる。

等の諸項目では女兒の方がすぐれている。又年少兒と年長

兒との間にも若干の性行差が見られたが其については省略し

て、次に性格類型について述べたいと思ふ。

11

幼兒性行評定尺度に現れた性格を評定點、その他によつて A、B、C、D、E の五つのタイプに分類する事については既に述べたが、それら五つの性格類型を具體的に捉えるために各群の性格プロフィールを作り比較してみた。その結果甚だ興味深い圖表が得られたが紙面の都合で割愛を餘儀なくされたのでこゝではその特性を要記するに止める。

A型。他のどのタイプよりも評點が高く、積極的、攻究的、明朗、瀟灑、協調、忍耐等の美點をそなえ、どの項目も圓滿な發達をみせている。

B型。A型と殆んど同じ傾向を示すが全體的に低調で消極的である。創造性、集注性、に於てやゝ不満である。平凡型ともいふべきか。

C型。知的に優れている。殊に意志的である點に特色があつて自立性の評點は最高であるが、社會性に乏しく情緒的性質はやゝ内向的。氣むつかしいという共通點を持つ、又物を大切にす。

D型。最も低調、殊に忍耐性、創造性に缺け他と協調しようとしな。自立性に乏しく元氣がない。ふざけたりしない。

E型。元氣旺盛であるが情緒不安定。注意散漫、行動に一貫性、恒常性がなく生活は散文的で社會生活に適應しにく。

これらA、B、C、D、E型は又理想型、平凡型、意志型、消極型、不定型とでも名付るべきであらうか。

智能指數との關係を年長兒について述べた結果によると、A一二八、B一二二、C一二四、D一〇七、E一〇九、で兩者に不可分の關係が想像されるが年少兒のI・Qは調査未了で明確な結論を得るに至らなかつた。

次表は各性格類型群の員數分布を示したものであるが、最も員數の多いのはB型で、年令、性別を問わず最高を示している。AとCは少い。しかし年長兒ではA型が二二・五%を占め、B型の次に多くなつてゐる。又全員中にはE型が意外に多い事が到るのである。女兒にあつてはその約半數に近いものがB型に屬し生得的なものと思わせる。

性格類型構成員數表

計	E	D	C	B	A	總 員				
						男	兒	女	兒	年長兒
100	110.3	181.1	122.1	355.6	136.6%	150.0	115.0	114.4	225.5	48.8
						300.0	41.6	31.4	31.4	39.8
						130.0	11.4	13.9	10.6	
						190.0	17.8	12.9	23.3	
						230.0	17.8	19.3	21.3	
						100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

二

次は性格類型と家庭環境との關係について考察するために類型群別に家庭環境諸項目の状態を調べたのであるが問題を簡明ならしめるために項目數を適宜整理した。その結果について各項目毎の表を示しつゝ考察してみたいと思う。

(一) 家庭の職業

業 種 別	總員 %	類 型 別 %				
		A	B	C	D	E
		無	中、小、商、及、自、由、業	給、料、生、活、者	專、門、的、職、業	職
無	35.5	0	5.1	9.1	0	30.3
中、小、商、及、自、由、業	24.3	16.6	15.5	9.1	37.0	30.3
給、料、生、活、者	55.3	7.3	50.8	63.7	44.4	55.3
專、門、的、職、業	20.9	33.0	19.6	18.1	14.5	22.2
職	35.5	0	5.1	9.1	0	30.3

ここで専門的職業及び無職は性格と特別な連關はないと解されるがA・C型には給料生活者が多く、D・E型には中小商工業及び自由業が多い。後者は兩親在宅の機會が多いため時間的な束縛が少く従つて勤入家庭の規則的な生活に及ばぬものがあり、職業そのものよりも其に原因した生活状態に問題があるものと思われる。

(二) 父母の年齢

多少の連關がみられる。即ちE型の者の父母は年令差の大きいものが多くA・B・C型には若年が多い。C型に若年、

父母の年齢

父母の年齢				項目
父	母	の	年	種
年齢差大	高年	中年	若年	別
八・五	七・四	五・七	三・三	總員%
二・五	二・五	五・〇	三・〇	A
五・一	六・五	五・四	三・四	B
〇	四・五	五・三	三・二	C
〇	七・〇	四・四	一・四・五	D
〇	三・一	三・〇	三・一	E

中年の父母の多い事はその生活が元氣と自由に恵まれている事に原因しているのではあるまいか。こゝで面白いのはA型父母の教育程度

母の教育程度				父の教育程度				項目
高	中	初	等	高	専	中	初	種
等	等	等	等	等	門	等	等	別
三〇・〇	三〇・六	四・四	六・〇	一六・六	一六・九	二・六	二・六	總員%
三三・五	九三・五	〇・〇	七五・〇	一六・六	四二	四二	四二	A
二八・三	六六・六	五・一	五〇・〇	一六・三	四二・七	一四・七	一九	B
四七・七	五九・三	〇	七四・四	一八・一	四・五	四・五	〇	C
三五・九	七〇・三	〇	五八	一四・五	三・二	三・二	三・七	D
一六・	六九・七	二・一	四四	二七・二	一六・	一六・	三〇	E

とE型に一つの共通點の見られる事である。高年及年令差の大きい父母の生活は人生の経験豊かで思慮の深い一面の時に消極的で子供を溺愛する傾向を持つのではあるまいか、良き方向をとつた場合がA型として現れ逆の場合はE型を作る可能性が多いものと推察される。

(三) 父及び母の教育程度

A・C型に高等教育程度の父が多く、B、D型には中等教育程度のものがやゝ多い。又、E型の子供の母に初等程度の者が最も多くA、C型の母は比較的専門教育を受けている者が多いことが判る。

(四) 同胞数及出生順位

項目		種別	總員%	類型別%				
出生順位	同胞数	種別	總員%	A	B	C	D	E
長子	一人	一人子	三〇・〇	八・三	一四・七	四・五	三・七	三三・三
末子	二人	一人一五人	八〇・〇	八・五	七・一	七・二	八・二	二七・六
その他	五人以上	八〇	四二	一〇・二	九・一	三・七	三・三	三三・三
出生順位	長子	三・三	三三・五	三三・〇	六・一	二九・〇	三三・三	三三・三
出生順位	末子	三三・五	四・六	四・七	三・二	三・七	二七・六	二七・六
出生順位	その他	一六・六	一三・三	四七・七	三三・〇	三三・三	三三・三	三三・三

同胞数ではE型に特殊な傾向、即ち特にE型兄に一人子又は多子家庭のものが多く二―五人の者が著しく少い。又C型

には長子、末子が少くA型には長子、末子が多い事は面白いと思う。

(五) 同胞性別、保育者、祖父母同居の有無。

項目	種別	総員%	類別				
			A	B	C	D	E
同胞性別	一人息子	二六・七	一六・六	一七・九	三三・八	二二・一	二五・一
	一人娘	四・三	八・三	一六・三	九・二	一四・五	一六・一
保育者	母	六九・〇	六六・四	六四・三	五九・三	七〇・三	六六・八
	父及母	三三・三	三三・二	三六・四	三七・〇	二九・三	三三・五
保	祖父	四・一	〇	四・四	八・七	七・三	〇
	祖母	三三・三	四・二	二一・八	四・三	一四・五	三〇・五
同居	母及使用人	九・四	八・三	七・四	〇	七・三	一六・〇
	ナ	三三・八	三七・五	三六・三	三三・九	二九・〇	三三・三
祖父母同居	一時有り	三三・七	三七・五	三〇・二	三〇・〇	三三・九	三二・一
	常に有り	三三・八	三三・〇	三三・六	九・一	四・七	三六・六

この三項目にあつては特に著しい傾向が見出し難い。

(六) 教養状態全般——數種の調査項目を概括して教養状態を良、可、不可の三段階に區別して次表を得た。

他の何れの條件よりも兩者の關係は明白である、教養状態はA、B、C、D、Eの順序に降下している。A型家庭では

項目	種別	総員%	類別				
			A	B	C	D	E
教育概況	良	三三・三	六二・五	八二・三	七二・二	三三・七	〇
	可	四九・九	三三・〇	三〇・八	四〇・九	三三・九	三三・五
不可	不可	一六・八	八・三	三〇・九	三三・七	三三・九	三三・六

良を示すものが六二・五%もみられるに比しE型家庭には〇である。よき教養がよき性格につながる事が整然と知られる。以上で一般家庭的條件についての考察を終り續いて身體的條件と性格類型について考えてみよう。

(七) 出生時概況

A、C、及びBDEにはそれぞれ同様な傾向が見える。D型は最も成績不良である、出生時の状況の悪いことは將來の性格に消極的な傾向をもたらす原因になるのであろうか。こゝでもAは最も良し。

(八) 乳兒期の發達

A型の良好な事が明白である。B、C、Dはほとんど同様。Eはやゝ悪し。

(九) 過去及現在の健康

出生時の場合と同じ狀況が見られる。

(十) 習慣(躰け)

次でこの問題に入ろう。習慣の項目は五つに整然統合して考えてみた。その評定は標準程度を良、やゝ劣つたものを可。遲滞の著しいものを不可と假定して集計してみた。その結果は次表の如くである。

出生時状況

項目	種別	總員%	出生時概況					乳兒病發達			現康及健		過去の						
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	中	下						
A	類	元・四	元・四	元・六	二七・二	七・二	一・五	三・五	四・六	三・五	三・七	四・七	四・四	四・二	四・二	一・六	四・五	七・二	六・二
B	類	元・六	元・六	三・九	二七・二	七・二	一・五	三・五	四・六	三・五	三・七	四・七	四・四	四・二	四・二	一・六	四・五	七・二	六・二
C	類	元・六	元・六	三・九	二七・二	七・二	一・五	三・五	四・六	三・五	三・七	四・七	四・四	四・二	四・二	一・六	四・五	七・二	六・二
D	類	元・六	元・六	三・九	二七・二	七・二	一・五	三・五	四・六	三・五	三・七	四・七	四・四	四・二	四・二	一・六	四・五	七・二	六・二
E	類	元・六	元・六	三・九	二七・二	七・二	一・五	三・五	四・六	三・五	三・七	四・七	四・四	四・二	四・二	一・六	四・五	七・二	六・二

表によれば離乳期ではA型には一年未滿に完了したものが多い、多く、C、Eがわずかに低い。食事の習慣ではEがやや不良と思われ、着衣、排泄の習慣はB型や悪く、Aはやよい。又睡眠はA、CがややよくDEがやや好ましくない。その他の躰けはA、D、Eが相似しB、Cより良い状態にある。しかし何れの項目にあつても著しい傾向を見出すことは困難な様に思われる。これは習慣、躰けの状態は一面性格の一つの現象とも解され、兩者いづれをその成因とするかは決

乳兒期の發達

項目	種別	總員	離乳期					食		着衣		排泄		睡眠		その他	
			一年マデ	一年—二年	二年以後	良	可	不	可	良	可	不	可	良	可	不	可
A	類	元・六	五〇・〇	三〇・五	三三・八	三三・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六
B	類	元・六	五〇・〇	三〇・五	三三・八	三三・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六
C	類	元・六	五〇・〇	三〇・五	三三・八	三三・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六
D	類	元・六	五〇・〇	三〇・五	三三・八	三三・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六
E	類	元・六	五〇・〇	三〇・五	三三・八	三三・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六	二七・三	二〇・八	一六・六

定し難い事實であるためではあるまいか。即ち兩者は因果的な關係と言うよりも不可分なつながりを持つもので互に原因となり結果となつて結びつてゐるものではないかと思われ

四

結論、以上調査の結果より推論するに、性格類型と關係の深い環境項目は、家庭的條件の内の(一) 家庭の職業、(二) 父母の年令、(三) 父母の教育、(四) 同胞數、(五) 出生順位等で、祖父母同居の有無、同胞の性別、保育者等には深い關係を見出し難い。而してこれらの何れより最も影響の強いのは「兩親の子供に對する教養態度」であつて、(一)(二)(三)(四)(五)の各項目も其自身が直接の影響を及ぼすのではなくかゝる環境によつてかもし出される家庭の雰囲気、生活形態等の内面的なものが深い教育性を持つものでこの具體的な現れが「子供に對する教養態度」であるのではないかと思われ

身體的條件の中では乳兒期の發達と性格との關係に最も高い相關を思わせられる。この事は年長兒のI・Qと性格類型との間にみられた一つの傾向と共に知能と性格の密接な結びつきを想像させるものである。

身體的好條件はその性格を積極的、外向的に方向づけるが身體的に恵まれぬ場合はD型の如き消極的、非自立的な性格を形成しやすと思われ。しかしその逆は二三頁へつゞく

第二部 (講演)

1、幼兒教育について

總司令部幼兒教育係官 ヤイデ女史

2、箱根について

神奈川縣立小田原男子高等學校

教諭 中野敬次郎

文部省初等教育課長、厚生省課長、神奈川縣當局の方々、又、軍政部から、神奈川縣の教育方面御指導の方、總司令部のヤイデ女史等の實に有意義なお話をうかがい、私共の使命の重大さを痛感した。

次に少しヤイデ女史のお話を覚え書よりひろつてみよう。ヤイデ女史のお話はアメリカの幼兒の一日の生活であつた。アメリカの幼兒の一日の生活であつた。アメリカでは衛生を非常に重んじ、朝、幼稚園に來た子供のとどと耳と手の検査を先生がする習慣が徹底されていて、子供もこれにすつかりなれてゐる様子であり、又、遊びでは、全身を使うように、例えば積木にしても大きい箱積木を使つてゐるやうに伺つた。女史は私達の任務の重要な事を強調され、どこの國でも保育従事者が明るく生き生きとして見えるのがうれしい、更に一段の努力を希う、と激勵して下さつた。

以上の様に會も神奈川縣準備委員會の方々、御努力により、無事進行し、將來幼兒の爲に何か意味ある様會員一同力強いものを感じつゝ開會した。閉會後はそれ／＼一日宿泊し、箱根見物等、皆各自のプランの道を進み、楽しいレクリエーションをした。

後、室の窓側にすわりと並んで足を思い切り伸ばした夢の姿を見た。赤いおふとんをお腹の上にチョコントのせて、たとえようもない愛らしさ。暑い夏の日の裸足遊びや水遊びの後の晝寝に一番グツスリ深い眠りに入れるのも三歳児組である。

◎自分の意にそわぬことば何でもお母さんが、お友達が生がと、駄々をこねて泣き度くもないのに大聲はり上げて愚圖る姿を幾度廊下のまん中に見出したことか、英ちゃんの腕白大官ぶりは幼稚園一だった。然しよいところは、どんなに放り出しておいても叱つても餘計ひつついて來ることであつた。提灯鼻をすりつけてぶら下るので、私達のスカートは、なめくじの足跡のように銀線の模様絶え間なしたつた。その英ちゃんや二二年目のこの頃、メキ／＼と想像性豊かな製作熱をみせて、みんなをグン／＼引つばつてゐる。五月の雨の日だった。一本のぬりぬりチューリップを中心にザア／＼降りそゞ雨、根元に豆自動車が一臺止つてゐる、晝が黒板に貼られてあつた。クレオンの跡の自由奔放なこと、みとれてゐる背後から「先生ポックリ坊やが、チューリップの花の中で、眠つてるんだからそつとしておいてね」と英ちゃんの聲。まことに動中靜ある大きな構想だった。

註◎ぬりぬりは太平洋のまん中へというお話を先年聞いてから、相當考えさせられたが、子供達がこんなにも好むものをと思つとむざ／＼流し得ないで、それからすつと、

ぬりぬりをヒントに、自由畫へ、自由貼繪へと、ぬりぬりの發展的取り扱いを試みている。雨の日等靜かな遊びの誘導の一つとして、私はよく謄寫器を保育室のまん中へ持ち出して、ぬりぬりを開業する。

◎ポックリ坊やとは、幻燈のスライドの一つで、ポックリ坊やが豆自動車で冒険旅行中野原で大雨に會い、キノコの傘の下に雨やどりし、更に蟻の誘いを得てチューリップの花にうつり、ついに深い眠りに入つてしまふ一場面、一ヶ月に二回位幻燈を行つてゐる。以上。

(一九頁より) 必ずしも眞とは考えられない。

習慣の項目の中では離乳期と食事の習慣が性格と多少連關性を持つが他の項目には特別な傾向は見出し得なかつた。又睡眠の習慣の良否は身體狀況と關係が深いと思われた。

三大項目の中で最も影響の深いのは家庭的條件であつて之に身體的、習慣等の條件が參與して類型差の環境的原因となるものと解されるのである。換言すればこどもの生得的傾向に對して両親が如何なる態度でのぞみ、こどもの經驗世界として如何なる場を用意してやるかという事が性格形成に最も強い方向づけを與えるものであつて、之は結局両親の教養乃至は兒童觀、人生觀等の両親自身の内に存する問題であると思われる。幼兒にとつての理想的な教育的場は人類すべてにとつての理想的な家庭生活であるとも云うべきであらう。